水葬●桜望子

来なくても良い朝が増え窓際の結露に黴びてゆく雪見窓
シンプルなカッターを買う　腕を切るときにも美しくあるように
ギリギリの見えないラインで切る腕の葉脈のように滲み出す血は
怒鳴られる声に無言で佇んでまるで花瓶に枯れてゆく花
生きられる人が生きればいいと思う　重なり合って咲くシクラメン
何錠なら死ねないのかを冷静に検索しているオーバードーズ
やれることやらないで死ぬのは馬鹿とあなたはいつも美しいよね
死ねなかった朝の光のぼんやりと海に沈んでみたいと思う
海の街の求人に送る履歴書に水泳歴をなんとなく書く
白鳥を見たと語ればこれからは何度も見られる日々が来るよと
潮風に背中を押されて石段を登る暮らしを私が選んだ
生きているものみな音を出すことを知るシェアハウスに止まぬドライヤー
錆びついた手すりは元に戻らない潮騒の中で飲む睡眠薬
そうやって生きてきたけどそうやって生きなくて別によかったんだ
夕焼けが海へと移すその熱の冷めてゆくまで鳴らすウクレレ
花びらのように浜辺に貝殻の落ちて手向ける水葬のごと
貝殻の裏側にある虹彩の　ほんとうはずっと反対だった
砂浜はいのち終わりしもの多く真っ白になって崩れてく蟹
綻びた糸引っ張って切った後やっぱり捨て去ってしまうブラジャー
「体調はどう?」と電話をする友の臨月の身に水辺の増えて